| 科目ナンバリング | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名<英訳> | 日本語コミュニケーションの特徴<br>Some Features of Japanese Communication | | 担当者所属職名・氏名 | 国際高等教育院 教授　　パリハワダナ　ルチラ | |
| 群 | 人文・社会科学科目群 | 分野(分類) | 芸術・文学・言語(各論) | 使用言語 | 日本語 |
| 旧群 | A群 | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | 講義（対面授業科目） |
| 開講年度・開講期 | 2024・前期 | 曜時限 | 月2 | 配当学年 | 全回生 | 対象学生 | 全学向 |

**[授業の概要・目的]**

私たちは相槌一つを打つ時でさえも、無意識的であるとは言え、話し相手との上下関係や取り挙げる話題などによって打つ相槌の種類を選択し、その相槌の打ち方を通して相手に対する配慮を表現する。このようにコミュニケーションの諸形式において、言語の使用を左右する社会・文化的背景が見えてくる。
この授業では、ノンバーバルコミュニケーション、相槌表現、謙譲表現、授受表現などを例にしながら、日本語コミュニケーションの諸特徴について考察する。とりわけ、聞き手に対する配慮意識がこれらの表現においてどのように反映されているのかを考えてみる。談話の進行の仕方や情報構造と配慮機能の関わり方などについても取り上げる。

**[到達目標]**

取り挙げる言語事象を手掛かりにしつつ、様々な言語現象に気付き、観察する関心・能力を養うことがこの授業の到達目標である。
履修者には自身の言語行動について注意深く内省しながら、ディスカッションなどに積極的に参加して頂きたい。

**[授業計画と内容]**

この授業では様々な日本語コミュニケーション形式に反映される日本語の特徴について考察していく。

各回の授業内容（予定）は以下の通りである。

第 1週　　履修ガイダンス、総論
第 2週　　クイズ、ノンバーバルコミュニケーション
第 3週　　相槌表現とフィラー、考察文 1
第 4週　　独り言、ディスカッション 1
第 5週　　感情の表出と感動詞、考察文 2
第 6週　　挨拶表現の特徴、ディスカッション 2
第 7週　　指示表現、考察文 3
第 8週　　呼称表現、ディスカッション 3
第 9週　　依頼・断り表現、考察文 4
第10週　　ほめ言葉、考察文 5
第11週　　授受表現と恩恵、考察文 6
第12週　　謙譲・配慮表現、ディスカッション 4
第13週　　情報構造とコミュニケーション、考察文 7
第14週　　日本語は曖昧な言語なのか？、ディスカッション 5

なお、履修者に合わせて内容を若干変更する場合もある。
与えられた課題について上記の通りグループ・ディスカッションを行う予定であるので、履修者の積極的参加が求められる。

日本語コミュニケーションの特徴(2)へ続く↓↓↓

**日本語コミュニケーションの特徴(2)**

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

評価は以下の通りに行う。

期末レポート　40%
クイズ、ディスカッション、考察文　50%
授業への参加度合い　10%

**[教科書]**

プリント配布

**[参考書等]**

（参考書）
国立国語研究所 『言語行動における「配慮」の諸相』（くろしお出版）ISBN:9784874243381
Brown, P. & Levinson, C. 『Politeness Some Universals in Language Usage』（Cambridge University Press）ISBN:9780521313551

**[授業外学修（予習・復習）等]**

参考文献については、配布プリントの末尾に掲載しておく予定であり、授業中にも適宜紹介する。履修者には各回最低限一つの文献を調べてみる習慣を身に付けてほしい。更に、英語で書かれた文献の講読にもチャレンジしてほしい。

**[その他（オフィスアワー等）]**

オフィスアワー：木曜日14:45～16:15
研究室：旧石油化学教室本館棟1階105号室